

19~21日 仙台で全国産業安全衛生大会

全国産業安全衛生大会の  
主な震災関連プログラム

発表企業	内容
日本化成	東日本大震災を経験した 教訓からの防災・震災対 策
IHI	災害想定訓練について
日本製紙	復興作業員の安全確保
東北電力	東日本大震災時の女川原 子力発電所
東京エレクトロン宮城	震災からの復旧と震災後 のBCP再構築について
ユアテック	沿岸部における太陽光発 電所建設現場の防災・危 機管理について
日本通運	大災害の経験に基づく必 要な安全対策について

# 震災の教訓 今に生かす

## 大震災 東北の今

く。東日本大震災で大きな被害を受けながら周辺に住む人の避難所としての役割を果たした南三陸ホテル観

このほかシンポジウムでは「沿岸域での津波災害の低減を考える」と題し、東北大学災害科学国際研究所や

洋の女将が、観光が復興に果たす役割などを講演する分科会もある。

## 経験踏まえた施策 全国発信

仙台市などが震災の教訓を振り返る。「危険感受性を考える」と題したパネルディスカッションなども開く。

「災害に伴う職場のメンタルヘルス」や「リスクを伝えるコミュニケーション」など、震災後に改めて注目された課題に関する講演も多い。

東日本大震災から5年半が過ぎ、得られた教訓を全国に発信する場合は徐々に少なくなっている。特に東北の企業が当時の状況や社内での積み重ねている安全確保への取り組みを、幅広く伝えられる機会は少ない。

津波の直接的な被害を受けなかった企業にとっても、将来への備えを考えるための貴重なきっかけになるといえる。

10月8日(土)  
【日本経済新聞】